

新たな重点方針と内容案

地域に根付き未来を担うひとづくり

まちづくりの主体は「ひと」であり、本町が持つ自然・歴史・文化といった固有の価値に誇りを持ち、自ら考え行動する人材の育成に重点的に取り組みます。次代を担う子どもたちが、地域の魅力や課題に深く触れる機会を通じて郷土愛を育み、将来どこで暮らしていても「ここで生きたい、この町と関わり続けたい」と思える心の土壌を耕します。また、本町の価値に共感する町内外の人々と多様な関わりを育み、住民一人ひとりが主役となって主体的にまちづくりに関わる「共創の風土」を醸成します。住民と町を想う人々が自らの手で地域を支え、守る意識を共有することで、誰もが住み慣れた場所で安心して暮らし続けられる持続可能なコミュニティの基盤を築きます。

働く場の創出と魅力向上

北広島町が「選ばれ続けるまち」となるため、産業・雇用の創出と持続可能な地域経済の構築に最優先で取り組みます。本町の豊かな資源を活かした地場産業の振興や、多様なライフスタイルに合わせた柔軟な働き方の提案を通じて、女性や若者をはじめとした、挑戦する人々を惹きつける働く場の魅力を高めます。こうした経済活動の活性化は、生活を支える確かなインフラと安心安全な地域社会という土台の上に成り立つものであり、働く場の魅力を高めることが、ひいては地域の安心と定住の促進へとつながる好循環を生み出します。

地域の魅力を活かした、交流・関係人口及び移住・定住人口の増加

本町の魅力を戦略的に発信し、多様な関わりを持つ「ファン」の獲得から移住・定住へとつながる導線を構築します。単なる人口確保を目指すのではなく、本町ならではの豊かな自然や人とのつながりを究極の価値と捉え、それらを磨き上げることで「住みたい、関わりたい」と感じる“価値の最大化”を図ります。この流れを支えるのは、子どもから高齢者まで誰もが健やかに暮らし、必要な支援が届く「確かな安心」です。質の高い生活環境を整えることで、住民の満足度を高め、町内外から選ばれ続けるまちを実現します。

町内外に向けた情報発信・情報の共有

広い町域とともに多様な魅力を持つ本町において、町内外の情報を一元化し、迅速かつ的確に共有する仕組み（情報基盤）を構築します。町外に向けては戦略的な広報により本町の固有の価値を届けて「ファン」を広げ、町内においては地域や組織の枠を越えて「今、何が起きているか」を誰もが等しく知ることができる環境を整えます。情報の発信量と透明性を高め、共有を深めることで、一人ひとりの参画意識を醸成し、町内外からまちづくりへの関わりを創出するための確かな情報環境を築きます。

人や地域をつなぐネットワークの強化

地域、企業、各種団体といった多様な主体が、情報の共有から一歩踏み出し、実際の課題解決や価値創造に向けて連携・協働できる「実行のネットワーク」を強化します。点や線での活動を“面の施策”へと広げることで、互いの強みを活かし、主体的に動ける体制を整えます。この強固な連携ネットワークは、日常の活力を生むだけでなく、災害時の互助体制や集落機能の維持といった、本町の暮らしを根底で支える基盤となり、安全安心の確実性を高めます。

DX 推進強化による、多方面での効率化及びサービス、利便性向上

デジタル技術を生活のあらゆる分野に浸透させ、行政サービスの効率化と住民の利便性を向上させます。特に、交通・買い物などの生活支援や防災・防犯といった安全・安心の確保をデジタルで補完・強化することで、地理的な制約を克服し、誰もが最新技術の恩恵を等しく享受できる環境を整えます。町民一人ひとりの“やりたい”とデジタルがつながり、未来への可能性を広げるしなやかで新たな社会を構築します。

持続可能な行財政運営による適切かつ的確なまちづくり施策の縮充

人口減少と厳しい財政状況という現実に向き合い、限られた資源を「安全・安心の確保」と「次世代への投資」に賢く集中させる、持続可能な行財政運営を推進します。単なる規模の縮小ではなく、既存の施策を真に必要なものへと集中させる“縮充”の考え方を導入し、社会の変化に柔軟に対応できる的確で質の高い行政サービスを維持します。官民が知恵を出し合い、将来にわたって本町の価値を守り抜くことで、次世代が誇りを持って暮らせるまちの基盤を確実に引き継ぎます。